

# 研究活動に関する業績報告

氏名 佐藤正一

2022年2月11日現在

## 1. 研究分野

主な研究領域：データ解析（AI を利用したデータ解析から従来の統計処理を利用した解析業務）特に細胞分類に関する研究。

## 2. 研究業績（過去5年間）

分類	題名、著者(申請者含む)、発行掲載誌名/発表場所・巻号・頁、発行/発表年月など
① 原著論文	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ○Hiroaki Takeuchi , Yu Yoshikane, Hirotsugu Takenaka, <u>Shouichi Sato</u>ほか(12名中11番目). Health Effects of Drinking Water Produced from Deep Sea Water: A Randomized Double-Blind Controlled Trial. <i>Nutrients</i> 2022, 1, 581. (査読あり)</li> <li>2. Akito Ichikawa, Sakurako Neo, Ryouhei Nukui, <u>Shouichi Sato</u>ほか(11名中8番目). Establishment of large canine hepatocyte spheroids by mixing vascular endothelial cells and canine adipose-derived mesenchymal stem cells. <i>2021, Regenerative Therapy</i> 2022; 19: 1-8. (査読あり)</li> <li>3. Katsuhide Ikeda, <u>Shouichi Sato</u>, Hiroshi Chigira, Yasuo Shibuki, Nobuyoshi Hiraoka. Effects of the Storage Solution Type and Prolonged Storage on the Immunoreactivity of Cells. <i>Acta cytologica</i> 2020 ;64(4) : 352-359. (査読あり)</li> <li>4. Katsuhide Ikeda, <u>Shouichi Sato</u>, Hiroshi Chigira, Yasuo Shibuki, Nobuyoshi Hiraoka. Characterizing the Effect of Automated Cell Sorting Solutions on Cytomorphological Changes. <i>Acta cytologica</i> 2020 ;64(3) : 232-240. (査読あり)</li> <li>5. ○Hiroaki Takeuchi, Keiro Higuchi, Yu Yoshikane, <u>Shouichi Sato</u>ほか(12名中11番目). Drinking Refined Deep-Sea Water Improves the Gut Ecosystem with Beneficial Effects on Intestinal Health in Humans: A Randomized Double-Blind Controlled Trial. <i>Nutrients</i> 2020 ;12(9) : (査読あり)</li> <li>6. Sugita Y, Seimiya Y, <u>Sato S</u> and Osawa S. High-performance liquid chromatography-fluorescence detection of compounds containing keto and hydroxyl groups in urine for cancer screening. <i>Int J Anal Bio-Sci</i> 2020 ; 8(1) : 1-8. (査読あり)</li> <li>7. Miki Kawano, Eisaku Hokazono, Susumu Osawa, <u>Shouichi Sato</u>ほか(8名中4番目). A novel assay for triglycerides using glycerol dehydrogenase and a water-soluble formazan dye, WST-8. <i>Annals of clinical biochemistry</i> 2019 ; 56(4) : 442-449. (査読あり)</li> <li>8. 面すみれ, 秋葉容子, 梶原裕貴, <u>佐藤正一</u>. 当院救急外来における血液培養陽性例に対する後方視的検討. <i>日本臨床衛生検査技師会</i> 2019 ; 68(1) : 26-32. (査読あり)</li> <li>9. 西田曜, 松本幸子, <u>佐藤正一</u>. 看護系大学生のヒト免疫不全ウイルス・後天性免疫</li> </ol>

	<p>不全症候群についての基礎的知識に関する解析. 日本母性衛生学会 2019 ; 60(1) : 168-173. (査読あり)</p> <p>10. 福田幸広, 澤田朝寛, 大山正之, <u>佐藤正一</u>ほか (10名中7番目). 血算サーベイ試料作製における最適条件の検討(第2報). 日本検査血液学会 2018 ; 19(1) : 63-71. (査読あり)</p> <p>11. 濱崎 孝, 細萱茂実, 池田勝義, <u>佐藤正一</u>ほか (16名中8番目). 臨床化学検査における外部精度評価・技能試験提供者に関する指針. 日本臨床化学会 2017 ; 46(3) : 238-245. (査読あり)</p> <p>12. Nobuyasu Yukimasa 1, Shota Kohama, Wataru Oboshi, <u>Shoichi Sato</u>, Takehiro Nakamura. Genetic Factors of Low-responsiveness to Hepatitis B Virus Vaccine Confirms the Importance of Human Leukocyte Antigen Class II Types in a Japanese Young Adult Population. Acta Med Okayama 2017 ; 71(5) : 433-436. (査読あり)</p>
② 総説	<p>1. <u>佐藤正一</u>. 次元圧縮とクラスター解析による可視化と臨床応用. 臨床化学 2022 ; 51(1) : 12-20. (査読なし)</p> <p>2. <u>佐藤正一</u>. EBLM(evidence based laboratory medicine)の新展開クラスター分析の臨床検査への応用. 臨床検査 2020 ; 64(5) : 600-608. (査読なし)</p> <p>3. <u>佐藤正一</u>. 臨床検査におけるAIの概略-AIが臨床検査でできること. 日本臨床検査医学会誌 2021 ; 69(5) : 344-348. (査読なし)</p> <p>4. <u>佐藤正一</u>. いまさら聞けない新規分析装置・試薬導入時の検討方法 日本臨床化学会が提唱するバリデーション法とソフトの紹介. Medical Technology 2021 ; 49(6) : 602-605. (査読なし)</p> <p>5. <u>佐藤正一</u>, 市原清志. なぜ正常範囲ではなく"基準範囲"なのか "異常"は本当に異常なのか?. Medicina 2020 ; 57(6) : 827-831. (査読あり)</p> <p>6. <u>佐藤正一</u>. 予期せぬデータと出遭った時の対応 血中薬物濃度検査で予期せぬデータが得られたら 薬物血中濃度モニタリング(TDM). Medical Technology 2019 ; 47(5) : 445-447. (査読なし)</p> <p>7. <u>佐藤正一</u>, 市原清志. クラスター分析の原理と臨床検査への応用-新しい自己分配方式クラスター分析法を中心に. 臨床病理 2017 ; 65(8) : 885-896. (査読なし)</p>
③ 著書	<p>1. 医学検査『医療情報科学シリーズ I-II』特集号 医療情報科学シリーズ教本の6章を担当で分担執筆中 (単著) 2022年発刊予定</p> <p>2. カラーイメージで学ぶ統計学の基礎(市原清志, <u>佐藤正一</u>, 山下哲平). 日本教育研究センター(大阪) 2020年5月</p>
④ 症例報告	なし
⑤ 口頭発表	<p>1. <u>佐藤正一</u>. クラスター解析と次元圧縮事例. 第67回日本臨床検査医学会学術集会(富山県). 2021年11月(委員会企画公演)</p> <p>2. <u>佐藤正一</u>. HPLCにおける混合分布に対する正確な成分定量法の開発, 第67回日本臨床検査医学会学術集会(岩手県). 2020年11月(一般演題、口演)</p> <p>3. <u>佐藤正一</u>. メタロバランス法を用いたクラスター分析から見るがんリスクスクリーニング検査法の有用性. 第60回日本臨床化学会年次学術集会(東京). 2020年11月</p>

	<p>(一般演題、口演)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 草野 広行, 潮見 隆之, 富田 裕彦, <u>佐藤 正一</u>, 梅宮 敏文. 画像解析 AI ソフトウェアを用いた婦人科 LBC 標本における自動評価の有用性. 国際医療福祉大学学会(栃木県). 2020 年 11 月 (一般演題、口演)</li> <li>5. <u>佐藤正一</u>. 臨床検査における AI の概略-何ができるのか. 第 66 回日本臨床検査医学会学術集会 (岡山県). 2020 年 11 月 (一般演題、口演)</li> <li>6. 清宮正徳, 大島理沙, <u>佐藤正一</u>ほか (10 名中 8 番目). グルコース測定に用いる採血管の検討. 生物試料分析科学会(三重県) 2020 年 1 月 (一般演題、口演)</li> <li>7. 根尾櫻子, 黒川彩良, <u>佐藤正一</u>, 米澤智洋. 国内獣医領域における CBC 共用基準範囲設定に向けての取り組み. 日本獣医学会学術集会(東京) 2019 年 8 月 (一般演題、口演)</li> <li>8. 佐藤正一, 末吉茂雄, 細萱茂実, 池田勝義, 関口美香, 三木隆治. 現在の技術水準における施設内許容誤差限界の推定. 第 59 回日本臨床化学会年次学術集会(宮城県) 2019 年 9 月 (一般演題、口演)</li> </ol> <p>(認定試験指定講演)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>佐藤正一</u>. バリデーションを行うための統計の基礎. 2021 年認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師・管理者指定講習会 (福岡県). 2021 年 11 月 (指定口演)</li> <li>2. <u>佐藤正一</u>. バリデーションを行うための統計の基礎実践編. 2021 年認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師・管理者指定講習会 (東京県). 2021 年 9 月 (指定口演)</li> <li>3. <u>佐藤正一</u>. バリデーションを行うための統計の基礎統計編. 2021 年認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師・管理者指定講習会 (東京県). 2021 年 9 月 (指定口演)</li> <li>4. <u>佐藤正一</u>. 品質保証の判断基準とデータの解釈-管理試料の判断基準を中心に-. 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師 更新講習会(東京) 2019 年 11 月 (指定口演)</li> <li>5. <u>佐藤正一</u>. バリデーションを行うための統計の基礎. 2018 年認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師・管理者指定講習会 (東京). 2018 年 9 月 (指定口演)</li> <li>6. <u>佐藤正一</u>. 現在の技術水準における施設内許容誤差限界の推定. 2018 年認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師・管理者指定講習会 (名古屋). 2018 年 8 月 (指定口演)</li> <li>7. <u>佐藤正一</u>. バリデーションを行うための統計の基礎. 2017 年認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師・管理者指定講習会 (北海道). 2017 年 10 月 (指定口演)</li> </ol>
1. その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>佐藤正一</u>. 統計学の基礎 第 1 回 「真実を見抜く力」—統計の基礎の基礎と StatFlex の使用方法検定を始める前に—. マイクロン学術講演会 (東京)、2018 年 3 月 16 日 (招待講演)</li> <li>2. <u>佐藤正一</u>. 統計学の基礎 第 2 回 「真実を見抜く力」—SF 使用方法, 2 標本検定, 不</li> </ol>

	<p>確かさー. マイクロン学術講演会 (東京)、2018年3月23日 (招待講演)</p> <p>3. <u>佐藤正一</u>. 統計学の基礎 第3回 「真実を見抜く力」—1 標本検定と非劣性試験—. マイクロン学術講演会 (東京)、2018年4月20日 (招待講演)</p> <p>4. <u>佐藤正一</u>. 統計学の基礎 第4回 「真実を見抜く力」—判断分析, 感度・特異度・ROC解析—. マイクロン学術講演会 (東京)、2018年5月3日 (招待講演)</p> <p>5. <u>佐藤正一</u>. 統計学の基礎 第5回 「真実を見抜く力」—相関分析・回帰分析—. マイクロン学術講演会 (東京)、2018年5月3日 (招待講演)</p>
--	--

### 3. 外部研究費 (過去5年間)

外部研究費、代表分担区分、期間、研究経費
1. 「臨床検査の異常反応の検出と精度保証の研究」科学研究費補助金 (基盤研究(C), 分担)、2020~2023年度、429万円
2. 「地域高齢者の会話機会と摂食嚥下機能の関係ーオーラルフレイル予防プログラムの開発」科学研究費補助金 (基盤研究(C), 分担)、2020~2024年度、429万円
3. 「分離分析のための成分間の重なりやノイズに強い新クラスター分析法の開発と実用化」科学研究費補助金 (基盤研究(C), 代表)、2018~2023年度、429万円